

懇談会及びパブリックコメントで聴取した 主な御意見及び検討の方向性

第7回 「（仮称）はちおうじ未来デザイン2040」懇談会
令和4年（2022年）3月24日



目次

1. 概要	3
2. みんなで目指す2040年の姿	5
3. 未来を拓く原動力	16
4. 変革のキーワード	18
5. 重点テーマ及び取組方針	20
6. その他	23

1. 概要

(1) 懇談会及びパブリックコメントでの意見聴取の状況

第3～6回懇談会及びパブリックコメントにて**合計492件**の御意見・お考えを聴取いたしました。

No.	聴取方法	日時	御意見数
1	第3回 「（仮称）はちおうじ未来デザイン2040」 懇談会及び後日アンケート	令和3年11月11日（木）	49件
2	第4回 「（仮称）はちおうじ未来デザイン2040」 懇談会及び後日アンケート	令和3年12月20日（月）	57件
3	第5回 「（仮称）はちおうじ未来デザイン2040」 懇談会及び後日アンケート	令和4年1月18日（火）	40件
4	第6回 「（仮称）はちおうじ未来デザイン2040」 懇談会及び後日アンケート	令和4年2月7日（月）	40件
5	パブリックコメント（回答者数：69名）	令和4年1月15日（土） ～2月14日（月）	306件
合計			492件

本資料は、聴取した492件の御意見・お考えのうち一部を抜粋し、掲載したものです。

本資料に掲載されていない御意見・お考えも原案策定時の参考とさせていただきます。

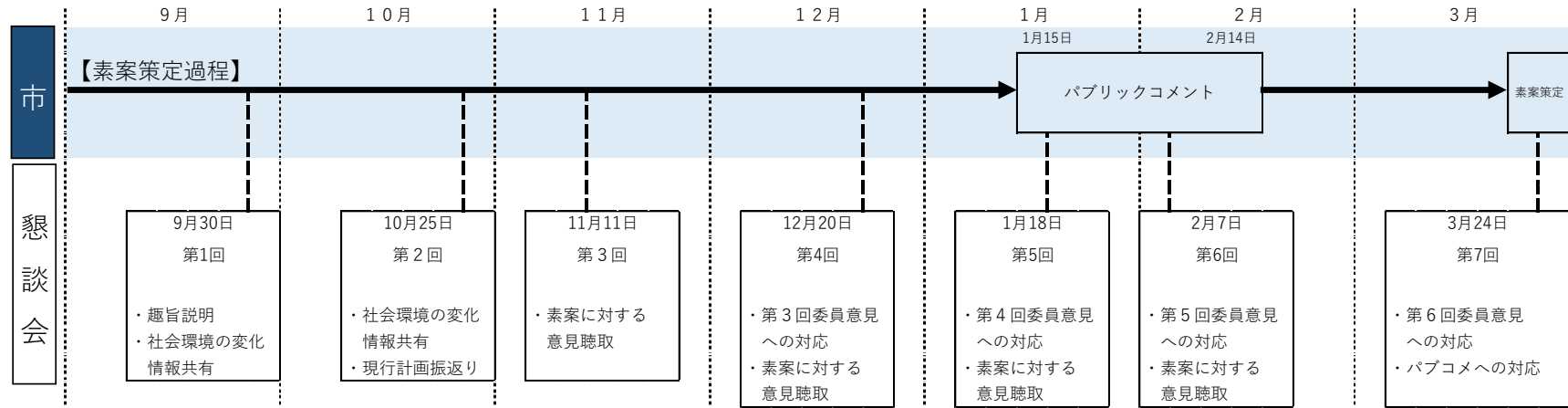
なお、本資料ではパブリックコメントで聴取した御意見・お考えに下線を付して掲載しております。

1. 概要

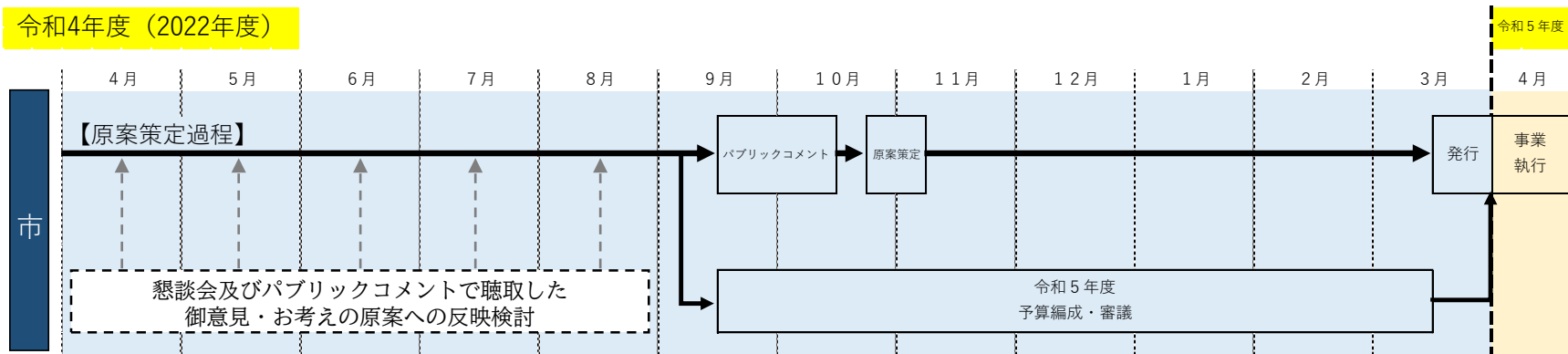
(2) 策定スケジュール

令和3年度（2021年度）

※第1回懇談会資料より転載・加筆



令和4年度（2022年度）



1. みんなで目指す2040年の姿

(1) 人とひと、人と地域など多様なつながりを実感し、ほっとする住みよいまちをみんなで作っている。

背景

- ・ 人口減少・少子高齢化の進行による担い手不足などに起因した地域活力の低下
- ・ 高齢者世帯や単独世帯などの増加
- ・ つながりに対する考え方やライフスタイルの多様化による地域コミュニティの希薄化などの地域社会の変化

実現に向けた方向性

- ・ 地域共生社会の実現に向けた持続可能な住民主体のまちづくりの推進
- ・ 社会的孤立防止に資する関係構築（実感できるつながりに向けた交流の創出）
 - － 交流の創出に向けた目的にとらわれない居場所づくりやつながる機会の創出
 - － バーチャルを活用したつながりのきっかけづくりや交流の創出
- ・ 義務感のないゆるやかなつながりから始まるコミュニティの活性化

<主な御意見>

- ・ 2040年には高齢者の就業拡大が予想されるが、このような社会潮流を踏まえ、高齢者がボランティアの中心を担う現在の市民協働の在り方を検討するべきである。

- ・ 姿(1)の「義務感のないゆるやかなつながりから始まるコミュニティの活性」は、今後の多様な社会にとってもマッチするよい指針と共感できる。一方、実現にあたっては、地域社会の変化に対応する新たな施策がないと上手くいかないため、両輪で進める必要がある。

<検討の方向性>

社会環境の変化を捉え、様々な市民や団体の特性を活かした市民協働をさらに進めていく必要があると認識しています。いただいた御意見を踏まえ、必要な検討を進めていく考えです。

多くの意見聴取の結果を踏まえ、「義務感のないゆるやかなつながり」をきっかけとして「コミュニティの活性化」につなげていく必要があると考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

1. みんなで目指す2040年の姿

(2) 住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生100年時代を生き活きと暮らしている。

背景

- ・ 人生100年時代の到来による健康寿命延伸の必要性の高まり
- ・ 高齢者の増加、生産年齢人口の減少による労働力不足の深刻化や社会保障費（年金・医療費など）の増大
- ・ 高齢者世帯や単独世帯などの増加
- ・ 認知症高齢者、要支援認定者・要介護認定者の増加
- ・ 8050（9060）問題、老老介護などの社会的課題

実現に向けた方向性

- ・ 地域共生社会に向けた人とひととのつながりと笑顔で支えあえる関係づくり
- ・ 地域包括ケアシステム の推進による一人ひとりが「望む生活」の実現
- ・ セルフケア能力の向上に向けた幼少期からの切れ目ない健康づくりの推進
- ・ 自然に健康でいられるきっかけ・環境・都市づくり
- ・ 社会参加促進と地域資源の充実による生きがいづくり
- ・ 地域医療体制の強化

<主な御意見>

- ・ 姿(2)には「子どもの頃からの健康づくり」の視点を追加する必要があるのではないかと。
- ・ 姿(2)の対象は、高齢者に限定されていると感じる。世代ごとに都市像を結び付けるのではなく、全世代に共通した都市像をそれぞれ掲げるべきではないかと。

- ・ 姿(2)は「高齢者福祉」にフォーカスしたものか。「障害者福祉」は姿(3)の内容に包含されているという理解で良いのか。

- ・ 「人生100年時代」を前提に方向性や方針を設定することが適切かどうか、再検討を要するのではないかと。「健康寿命の延伸を図りつつ」などと言い換えることも可能かと思う。
- ・ 「人生100年時代」という言葉が納得感がない。「長生きしたくない」という希望を持つ方も一定数いるが、そのような考えの方々を置き去りにする言葉であると感じる。

<検討の方向性>

姿(2)は全世代を対象とするもので、幼少の頃から切れ目のない健康づくりを進めていくことを意図しています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

姿(2)は年齢や障害の有無にかかわらず、すべての市民が健康にいられることを意図しています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

健康寿命が世界一の長寿社会を迎える中、住み慣れた地域で、市民一人ひとりがいつまでも「望む生活」を送れる「人生100年時代」を意図しています。
なお、「人生100年時代」は、多様な人生観への考え方を否定する意図はなく、すでに健康寿命が世界一の長寿社会がさらに延伸された状況を指すものとして使用しています。

1. みんなで目指す2040年の姿

(3) それぞれの個性を互いに認めあい、それぞれが望むフィールドで活躍している。

背景

- ・ ライフスタイルや家族形態の変化による価値観の多様化
- ・ 外国人人口の増加
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催（多様性と調和への期待）

実現に向けた方向性

- ・ 「知る」から始まる心のバリアフリー推進によるノーマライゼーション社会の実現
- ・ 誰もが安心して暮らせるユニバーサルデザインのまちづくり

<主な御意見>

- ・ 障害があったとしても悲観的に捉えるのではなく、自分の生活を維持し、前向きに挑戦できるといったニュアンスも追加いただきたい。

- ・ 市民にとってわかりやすくするため、例えば「多様性」等の表現をある程度明確にする必要があると感じた。
- ・ 「多様性」や「調和」、「多文化共生」等は耳ざわりのよい言葉であるが、もう少し具体性が必要なように感じる。

- ・ それぞれの個性を認めあうまでには長い時間がかかると想像してしまい、やや綺麗事感が強いかな、と感じた。

- ・ 物理的なバリアフリーは姿(7)に、意識・情報・制度面等のバリアフリーは姿(3)に整理した方が、課題と方向性を明確にできるのではないかと。

<検討の方向性>

障害の有無にかかわらず、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、それぞれの個性を認め合う姿として姿(3)を掲げています。また、誰もが挑戦したいことに挑戦できる姿として姿(4)を掲げています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、掲載内容を具体性のある表現に変更しました。

目標とする11の姿は、2040年の市民の暮らしや理想の状態を表現していません。市民の皆様と明確化した目標を共有し、協働のまちづくりを進めていくことが重要であると考えています。

実現に向けた方向性は、他の姿の方向性と重なる面もあると考えています。ここに掲げた11の姿の実現に向けて、市が取り組む施策は分野別に整理を行います。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

1. みんなで目指す2040年の姿

(4) ワクワク感を持って、「やりたい！」に挑戦でき、笑顔で自分のみちを歩んでいる。

背景

- ・ 予測困難な時代における教育で育むべき資質・能力の変化
- ・ 人生100年時代の到来による生涯学習・リカレント教育の必要性の高まり
- ・ 科学技術の進展や新型コロナウイルス感染症による働き方・学び方の変化
- ・ 終身雇用制度からの転換や副業・兼業の増加などの雇用のあり方の変化

実現に向けた方向性

- ・ 社会の変化を見据えた子どもたちの「生きる力」の育成
- ・ 生涯学習の推進によるつながり・生きがいの創出と学習成果の活用
- ・ キャリア形成・生涯現役に資するリカレント教育の推進
- ・ 自然体験の充実及びデジタル技術や大学などを活用した学習機会の拡大
- ・ 働き方を選択できる環境づくりの推進
- ・ 個人の知識・能力を地域に還元する仕組みづくり

<主な御意見>

- ・ 子どもたちにとって文化芸術などの人間教育が重要と考える。姿(4)では、そのような観点を盛り込んでいただきたい。

- ・ 「多様な働き方を選択できる」状態以前に、一度失敗したとしても再チャレンジできる環境の整備が重要である。「方向性」にリアリティのある表現を追加いただきたい。

- ・ 「方向性」で具体的な事柄が示されているのであれば、現状の表現の方がかえって市民の共感を得やすいのではないかと。具体性と分かりやすさを両立できるよう、上手く併記する必要がある。

- ・ 「多様な働き方を選択できる環境づくりの推進」の「方向性」がイメージできなかった。「環境」ではなく「場づくり」とすべきではないか。その後就労支援もカバーする内容と理解したが、そうであるならば市としてできる施策を検討する必要がある。

<検討の方向性>

子どもたちが地域の歴史、伝統、文化を学ぶ機会を通して人間性、社会性を育むことは重要である認識しており、姿(4)の実現に向けて重点テーマ(1)取組方針アに基づき取組んでいく考えです。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

就職氷河期世代等の就労促進、離職した若者や高齢者の再就職しやすい環境づくりは課題であると認識しており、姿(4)の実現に向けて重点テーマ(1)取組方針イに基づき取組んでいく考えです。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

重点テーマ(1)未来の主角づくり、取組方針イでは、「場づくり」を含めた多様な働き方を選択できる環境づくりの推進を想定しています。原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

1. みんなで目指す2040年の姿

(5) 子どもの幸せをみんなでわちあい、安心と喜びを持って子育てしている。

背景

- ・ 少子化の進行
- ・ 核家族世帯の増加
- ・ 障害児や外国人家庭など配慮が必要な子ども・家庭の顕在化
- ・ 子どもの貧困、低所得世帯やひとり親世帯の困窮、児童虐待、教育格差、ダブルケア、ヤングケアラーなどの社会的課題

実現に向けた方向性

- ・ 地域や子育て世代同士のつながりの醸成による負担感・孤立感の軽減
- ・ 切れ目のない多面的な子育て支援の強化
- ・ 働き方を選択できる環境づくりの推進

<主な御意見>

- ・ 姿(5)の「背景」にある「ヤングケアラー」に関連して、外国人児童・生徒はヤングケアラーになる確率が高い。今後ぜひその対策もお願いしたい。

- ・ 「喜び」という表現がハードルを上げているが、「喜びを持って子供を育てる」というのは、目指すべきところではあると思う。

<検討の方向性>

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

「喜び」というキーワードは「市民の暮らしや理想の状態」を定めるうえで重要であるとの認識から使用しています。なお、令和2年5月29日閣議決定の少子化社会対策大綱においても、「子供を生み育てることの喜びや楽しさを実感できる社会をつくる必要がある。」と示しています。

1. みんなで目指す2040年の姿

(6) 一人ひとりが高い防災意識を持ち、互いに支えあいながら、

強さとしなやかさを持ったまちで安心して暮らしている。

背景

- ・ 首都直下地震などの発生リスクや気候変動に伴う自然災害の頻発化・激甚化
- ・ 人口減少・少子高齢化の進行や地域コミュニティの希薄化による自助・互助・共助機能の低下
- ・ 高齢者をはじめとする災害弱者（災害時要援護者）への対応の必要性の高まり

実現に向けた方向性

- ・ 先端技術やグリーンインフラを活用したレジリエントなまちづくりの推進
- ・ 災害履歴やリスクを踏まえた土地利用や施設整備の推進
- ・ 減災に資するみどりの適正管理の促進
- ・ 自助・互助・共助を支える防災情報伝達の強化
- ・ つながりの広がりや多様な連携による地域防災力の強化

<主な御意見>

- ・ 「多様な連携」の主体は、町会・自治会や自主防災組織に加えて、市民レベルのネットワークも災害時の重要な主体ではないか。
- ・ レジリエントなまちづくりを実現するためには、コミュニティが生きることが重要である。新たなつながりや連携を構築するのか、今ある町会・自治会を強化していくか、どちらにするかを踏まえて一言追記いただきたい。

- ・ 「レジリエント」が何を意味しているかわからない人もいると思うので、「復興力」と記載してはどうか。

<検討の方向性>

既存の町会・自治会や自主防災組織に加え、地域特性にあわせて地域防災力を強化していくことが必要であると認識しております。
いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

1. みんなで目指す2040年の姿

(7) 行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき、便利で快適な生活を送っている。

背景

- ・人口減少・少子高齢化の進行による都市のスポンジ化及び公共交通サービスの縮小（交通空白地域の増加）
- ・環境にやさしい低炭素な交通への展開気運の高まり
- ・カーシェアリングや駐車場マッチングサービスの広がり
- ・道路・橋梁の老朽化
- ・自動運転車などの先端技術の進展

実現に向けた方向性

- ・ライフスタイル、地域特性に応じた都市の集約化・コンパクト化の推進
- ・誰にでも使いやすい持続可能な公共交通システムの構築及び新たな移動手段の戦略的活用
- ・中心市街地などの回遊性及び安心・快適な歩行空間の確保
- ・道路を活用した賑わい溢れるコミュニティ空間の創出
- ・自動運転やMaaSなど先端技術の活用に向けたスマートシティの推進

<主な御意見>

- ・買い物難民に対して、地域の方々が独自に送迎サービスを実施している例もある。今後は行政がそうした地域の力を育てていく必要があるのではないか。
- ・背景に「カーシェアリングや駐車場マッチングサービスの広がり」という表現はあるが、実現に向けた方向性には対応する項目がない。
- ・買い物難民や生活上の課題を抱えた人に焦点を当てた表現がよいのではないか。
- ・「実現に向けた方向性」では、利便性に留まらず、周辺市街地の回遊性や公共空間の賑わいの話が挙げられているが、テーマとして異なる印象を受ける。
- ・姿(7)(8)で「便利に」とあるが、利便性を追求するあまり、環境負荷をかけてきた結果が温暖化として深刻な問題となっている。これ以上、便利さを追い求めることは示すべきではない。

<検討の方向性>

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

回遊性の確保、賑わい溢れるコミュニティ空間の創出は、“アクセス”や“便利で快適”の向上につながることを意図しています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

姿(7)では、市民が望む便利で快適な生活を描いています。また、姿(11)との関係では、相互に関連し、相乗効果を創出する取組みが持続可能な社会につながるものと考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

1. みんなで目指す2040年の姿

(8) 地域産業のイノベーションによって、より便利で豊かな生活を享受して暮らしている。

背景

- ・ 人口減少・少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少
- ・ 東京都立多摩産業交流センターやリニア中央新幹線による更なる人材交流の活発化
- ・ 圏央道をはじめとする広域交通の進捗
- ・ インターネット上での電子商取引の普及、Society 5.0 時代の到来、第4次産業革命 の進展
- ・ 人口減少・少子高齢化を背景とした商業や交通網の変化などによる買い物難民の増加
- ・ 働き方の変化による居住に対する選択肢の増加
- ・ 国が「2050年カーボンニュートラル に伴うグリーン成長戦略 」を策定

実現に向けた方向性

- ・ 企業の競争力を高める産学官の共創によるイノベーションエコシステムの構築
- ・ 女性、高齢者、障害者、外国人など多様な人材を活かす戦略的な人材活用を推進（ダイバーシティ経営）
- ・ テレワーク・ワーケーションなど新たな働き方への対応
- ・ 社会的課題・地域課題解決のための新たなビジネスの創出
- ・ 既存企業の持続可能性確保に向けた新しい価値の創出、事業継承、生産性向上の推進
- ・ 企業ニーズを踏まえた産業系土地利用誘導（受け皿づくり）の推進

<主な御意見>

- ・ イノベーションという表現があるが、これは経済学で言う「持続的イノベーション」か「破壊的イノベーション」か。より明確に表現できるとよい。

- ・ 現行計画では「地域資源を活用する産業の振興」という施策があるが、この案には地域のリソースを活かすという表現がない。明確に表現してもよいのではないか。

- ・ 「便利で豊かな生活」とあるが、人口減少の中で、いかにみんなで協力して持続可能な社会を構築するかが重要であり、そういったキャッチコピーの方がしっくり来るのではないか。
- ・ 「より便利」であることが、果たして2040年に向けて目指すべき姿なのか。「持続可能な社会をつくる」といった表現の方が姿としてマッチするのではないか。

<検討の方向性>

様々なモノやサービスが結合し、新しいライフスタイルを生み出すという意図です。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

「地域資源の活用」については、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

姿(8)は、地域産業の振興が市民の生活の向上と地域の活性化に寄与することで、地域経済の持続的な成長につながることを意図しています。また、自然環境と調和した暮らしを意図した姿(11)との関係では、相互に関連し、相乗効果を創出する取組みが持続可能な社会につながるものと考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

1. みんなで目指す2040年の姿

(9) お気に入りの「ふるさと八王子」の魅力を発信し、世界が「Hachioji」の魅力を体感している。

背景

- ・ 高尾山をはじめとする豊かな自然、長い歴史や文化、伝統産業など多岐にわたる観光資源を有する地域特性
- ・ 資源回収など政策分野における先導的な取組の実績
- ・ 人口減少・少子高齢化による地域づくりの担い手不足に対する交流人口・関係人口への期待の高まり
- ・ 桑都・八王子の歴史文化を高尾山との結びつきで物語るストーリー「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」の日本遺産認定
- ・ MaaSの概念の登場や観光に活用できるデジタル技術の進展

実現に向けた方向性

- ・ 交流人口・関係人口の増加に向けたターゲティングによる観光・MICEの推進
- ・ 観光資源の洗練化及び潜在的な観光資源の発掘
- ・ 歴史・文化などの魅力の発信による愛着や誇りの醸成
- ・ 世界を魅了するシティプロモーションの推進
- ・ 八王子のファンを巻き込んだ情報発信の促進

<主な御意見>

- ・ 「お気に入りの」という表現に違和感がある。
- ・ 「世界が」とあるが、規模があまりにも大きすぎる。
- ・ 「市民の誰もが」という表現を加えてはどうか。
- ・ そもそも魅力を「発信」する必要はあるのか。また、誰が発信するのか。
- ・ 現状の姿(9)は、市民が「自分たちでもできる」「やってみよう」と思いうべからず、できることのハードルを下げたほうがいい。

- ・ 「MICEの推進」とあるが、誘致は全国的にも難しい。実現のためには交通アクセスの利便性向上が重要であり、八王子の魅力である高尾山とMICEツーリズムを組み合わせ、検討を推進する必要がある。

- ・ 八王子市に対する愛着を実感することが課題である。

- ・ コロナ収束後に向けて、八王子の魅力を発信する仕組みを今から準備しておく必要がある。

<検討の方向性>

「みんなで目指す2040年の姿」は、「市民の暮らしや理想の状態」を表現しており、主語は「市民」としています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。

本市も課題であると認識しているため、都市ブランドの形成に向けたシティプロモーションの充実などに取組んでいます。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

1. みんなで目指す2040年の姿

(10) 地球規模で考え、地域で実践し、環境負荷ゼロのまちを目指しながら暮らしている。

背景

- ・ 地球温暖化による気候変動リスクの高まり
- ・ SDGsの浸透による環境問題への意識の高まり
- ・ 国が令和32年(2050年)までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言

実現に向けた方向性

- ・ 再生可能エネルギーの導入推進・普及
- ・ グリーンイノベーションの積極的な導入
- ・ 環境配慮行動の定着に向けた環境教育・環境学習の推進及び事業者支援
- ・ 3Rの推進による循環型社会の実現
- ・ 都市の集約化・コンパクト化によるエネルギーの効率化
- ・ 温室効果ガスの吸収源としてのみどりの保全・創出

<主な御意見>

- ・ 姿全体を通じて、環境負荷を低減して自然と調和するという目標があるならば、姿(8)にある「便利」「豊かさ」という表現は控えたほうが良い。

- ・ 市民レベルでできることは入れないのか。

- ・ 実現に向けた方向性の中で、生活の場における環境意識について明記できないか。

- ・ ごみ排出量少なさ日本一に胡座をかかず、再生可能エネルギーを普及させ、環境負荷ゼロを目指す方向性は素晴らしい。産官学連携等を通じて戦略的に進めていくべきである。一方、都市の集約化・コンパクト化によるエネルギーの効率化は、P20「住み慣れた地域で元気に年を重ね、」の文言と齟齬がある。各地域での地産地消小規模再生可能エネルギーの導入が八王子にはふさわしいのではないか。

<検討の方向性>

市民の皆様にとって豊かで便利な生活と自然環境と調和した持続可能な社会の両立を目指していく考えです。姿間が相互に関連し、相乗効果を創出する取組みが重要であると考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

市民の皆様に取り組んでいただきたい内容は、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

日常生活の中で、市民一人ひとりが地球温暖化に対する意識を高め、行動し、取組みを継続していくことが重要であると認識しています。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

環境負荷ゼロのまちに向けては、長期的な視点を持ち、事業者、大学などと連携していくことも重要であると認識しています。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。また、都市の集約化・コンパクト化については、姿(7)でも言及しておりますが、エネルギー以外にも導入効果が見込まれるものもあるため、いただいた御意見を踏まえ、必要な検討を進めていく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

1. みんなで目指す2040年の姿

(11) 自然と調和したまちで、みどりあふれる美しい空間を満喫しながら心豊かに暮らしている。

背景

- ・ 高尾山をはじめとした豊かな自然（森林、里山、河川など）のある地域特性
- ・ 市街化によるみどりの減少
- ・ 担い手不足などによる農林業の衰退や生産緑地の減少
- ・ 自然豊かで良好な環境を求める価値観の高まり

実現に向けた方向性

- ・ 水循環の再生や防災など、様々な分野におけるグリーンインフラの活用
- ・ 森林資源や緑地の保全と利用促進による森林などの循環の強化
- ・ 農業関連施策による農地の保全と活用
- ・ 持続可能な都市農業による地産地消の推進
- ・ 学びや憩い、活動の場としてのみどりの活用

<主なご意見>

- ・ 高尾山は三山一体としてインフラ整備を進め、魅力を発信する必要がある。
- ・ 農業では、マーケットインの考え方を広める人材の登用が必要である。
- ・ 耕作放棄地の事業化に向けて補助・助言が今後必要である。
- ・ 2040年を見据えた場合、農業もデジタル化は必須である。
「ドローン等の先端技術の活用」といった表現を付け加えてはどうか。

- ・ 「都市農業」の補足説明を入れてはいかがか。

- ・ 「学びや憩い、活動の場としてのみどりの活用」の趣旨がわからない。「みどり」は「活用」するような手段ではなく、その保全・存在・管理そのものが目的であり魅力であることから、「みず・みどりの環境が造り出す市民協働のさらなる展開」などが良いのではないか。

<検討の方向性>

いただいた御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。

都市農業は、「市街地及びその周辺の地域において行われる農業」を指します。
いただいた御意見を踏まえ、原案において掲載方法を検討していく考えです。

現行の「八王子すみどりの基本計画」の基本理念において、みどりの保全に加え、みどりが持つ多様な機能を活用することを掲げています。
ここでは、「八王子すみどりの基本計画」で整理しているみどりの機能のうち、「景観形成・創出」、「地域コミュニティ形成」、「子育て・教育」をイメージしています。

2. 未来を拓く原動力

(1) 地域自治

概要

子ども・子育て支援、防災・減災対策、防犯対策など、地域課題の中心はより住民に身近なものへと変わってきているため、地域の実情に合わせた対応がこれまで以上に必要です。地域のことを地域自らが決め、それを実行する「地域自治」の推進により、地域課題の解決を図っていきます。

<主な御意見>

- 「地域自治」よりも「市民参加」などの言葉の方が良いのではないか。「自治」の前段階として「参加」があり、多様な主体の参加を前提として自治につながるの、「自治」が狭義に感じる。

- 「地域自治」と「共創」は相容れないのではないか。誰が見ても関係性がわかる表現に変えたほうが良いと考える。
- 計画体系図では「未来を拓く原動力」が右側にあるが、因果関係のフローを踏まえると、図の左側に位置付けるべきものではないか。

- 「未来を拓く原動力」について、既に市に「地域自治」や「共創」といった考えの萌芽があるからこそ、今回こういった言葉で取りまとめたのではないか。具体的な事例やイメージを交えて提示いただくと分かりやすくなる。

- 「市民自治」から「地域自治」への説明が理解できない。

- 地域自治を推進するため、市職員のプロジェクトチームを再編成し、本来業務の他に担当地域（中学校区）を持ち、全庁的に地域活動に積極的に関わるのはどうか。地域課題解決や人材育成に繋がると考えるので、計画に盛り込んでいただきたい。

<検討の方向性>

市民参加は市民自治の基本原則であると捉えております。そのため、市民参加条例により市民との協働によるまちづくりを進めているところです。「地域自治」は市民自治を更に推進していくため、地域が主体となり、地域の実情に合ったまちづくりを行う地域単位での自治を想定しています。今後の推進により地域課題の解決を図っていききたいとの思いから「未来を拓く原動力」として掲げたものです。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

計画体系図では、「地域自治」と「共創」が全ての施策を原動力として引っ張り、加速化させていくイメージとして示しています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる、分かりやすい掲載方法を検討していく考えです。

「市民自治」を推進することは、基本構想の基本方針の一つであり、継承します。「地域自治」は市民自治を更に推進していくため、地域が主体となり、地域の実情に合ったまちづくりを行う地域単位での自治を想定しています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

2. 未来を拓く原動力

(2) 共創

概要

生産年齢人口の減少に伴う働き手不足による医療・介護問題や公共交通ネットワークの縮小、消費市場の規模縮小による地域経済の衰退、さらには気候変動とともに深刻化する災害対応など、社会的課題・地域課題は多様化・複合化していくことが予想されます。

これらの課題に対応していくためには、行政のリソースだけでは、限界が見られるようになっており、多様な主体が持つ特性を紡ぎ、互いの知恵とノウハウを共有し、新たな価値を創造する「共創」を基盤として施策を展開していくことが重要となります。民間事業者、大学などとの連携による「共創」により、社会的課題・地域課題の解決を図っていきます。

<主な御意見>

- 「未来を拓く原動力」に「共創」とあるが、「連携」やこれまで進めてきた「協働」との違いは何か。紙面で言及いただきたい。
- 「共創」は馴染みのない表現である。
- 「共創」について、「協働」との違い、なぜ新たな文言にしたのか説明してほしい。

- 企業は実証実験を協働でできる自治体を探している。市の課題解決のためにも積極的に推進すると良い。

- 「未来を拓く原動力」について、市民や民間事業者があまりに表に出過ぎている。行政の役割をより引き立たせる必要があると考える。

- 「共創」の参考事例である横浜市は、主として企業を想定している。一方で、八王子の「共創」では「多様な主体」と表現され、横浜市とは異なるのではないか。

- 人口減少に伴う経済の衰退等の諸課題を考えると、未来を拓く原動力に『協働』も入らなければ、6つの都市像を実現するのが困難である。

- 産官学連携事業の推進に向けた大胆な舵取りを市に期待している。

- 地域コミュニティを望まない住民も多数存在する中で、行政の役割と責任ある行動を明確にしていきたい。

<検討の方向性>

協力・協調する「協働」を礎としながら、市民へのアプローチを一步前進し、共有、共感のもと、共に創る「共創」が長期的な視点から重要であると考えております。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

当事者全員がWIN-WINとなる「共創」を目指し、対話する仕組みや事業展開を推進できる体制の構築が必要であると考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

長期ビジョンは行政の責任と役割、目標を明確にする行政計画です。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

「共創」は、市民自治を推進するため「協働」を礎としながら、発展的に捉えた概念と、官民連携の手法の一つであると考えています。原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

未来を拓く原動力は、八王子ビジョン2022の柱を継承し、より発展的に捉えた内容として「地域自治」と「共創」を掲げるものです。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

長期ビジョンは行政の責任と役割、目標を明確にする行政計画です。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

3. 変革のキーワード

(1) デジタル・トランスフォーメーション (DX)

概要

本市におけるデジタル・トランスフォーメーション (DX) とは、デジタル技術やデータを活用して、市民視点に立って行政サービスを変革し、新たな価値を創出するものです。

本市ではこれまでも、業務効率化を図るための業務プロセスのデジタル化や一部手続のオンライン化などに取り組んできましたが、DXにおいては、デジタル技術やデータを活用して、市民視点で業務を検証・見直し、行政サービスのあり方を再構築することが求められています。

単に手続をオンライン化するだけではなく、申請 手続き自体を不要とし、該当する市民に漏れなくサービスを提供するように仕組みを抜本的に変えていくなど、誰もが分かりやすく使いやすい、ニーズにマッチした質の高いサービスを実現し、市民の生活をより豊かにするため、DXに取り組めます。

<主な御意見>

- DXの説明文が行政サービスの変革がコアになっているように読み取れるが、社会（市民の生活）の変革をコアとしてはどうか。「社会全体をDXして再構築するために、行政と市民が共創した取り組み」などとしてはいかがか。
- 市役所が保有する「データ」を徹底的に活用するために、より積極的な「データ公開」を期待したい。「変革のキーワード」とする以上、これまでとは異なるスケールと熱意での展開を期待したい。
- ブロックチェーン技術による電子国家としてセキュリティ化されたエストニアのように、行政サービスや地方自治の在り方を再構築することが求められるのではないか。

<検討の方向性>

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、必要な検討を進めていく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

3. 変革のキーワード

(2) カーボンニュートラル

概要

令和2年(2020年)10月、国は令和32年(2050年)までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。

このカーボンニュートラルへの挑戦が、産業構造や経済社会の変革をもたらし、大きな成長につながるという発想で取り組んでいくことが重要です。本市が有する森林資源や水資源、里山などの豊かなみどりの保全・活用はもとより、市民一人ひとりのライフスタイルの転換など、全市一丸となって取組を推進するべく、令和32年(2050年)のカーボンニュートラル実現に向けて取り組みます。

<主な御意見>

- ・ ソーラーパネル設置に対して補助金等を行うことで、普及を広げる。
- ・ 「変革のキーワード」とその説明で使用している「全施策共通のキーワード」は異なる概念ではないか。「全施策共通のキーワード」であれば、例えば、「サステナビリティ(持続可能性)」等が考えられるが、現状を大きく変えるような「変革のキーワード」であれば、「DX」、「カーボンニュートラル」になり、いずれと捉えるかで選択するキーワードが異なるのではないか。
- ・ 「みんなで目指す2040年の姿」の達成に向けて必要なことは地域経営の変革であり、それに必要なものが「DX」や「カーボンニュートラル」という位置づけの方がよい。

<検討の方向性>

いただいた御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。

「変革のキーワード」は社会や行政のあり方を再構築する取組として定めるものです。市が取組むに当たっては全施策で行っていくという意図で示したところです。
いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

本市も同様に考えています。
いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

4. 重点テーマ及び取組方針

(1) 未来の主役づくり

テーマに込めた思い

未来を担うのは子どもから高齢者までの一人ひとりの市民です。一人ひとりが主役であるまちの実現には、健康で周囲の支えあいのもと、つながりによる安心の中で自分のみちをあるけるようになることにとどまらず、個々のできる範囲での社会参加を通じて支える側になっていくことで、心の豊かさや生きがいを得ていくことが重要です。

一人ひとりが主役であるまちの実現により、個人の成長だけではなく、地域の未来にもつながる好循環を生み出し、地域コミュニティの活性化、地域や八王子への愛着や誇りの醸成につなげていきます。

取組方針

ア 地域全体で子育てを支えるとともに、切れ目のない質の高い教育を通して、未来を担う子どもの「生きる力」を育みます。

イ 多様な学びの機会を創出し、誰もが働きやすく、社会参加できる環境を整えることで、一人ひとりの「自己実現力」を育みます。

ウ 自然に健康でいられる環境と地域医療体制を整備するとともに、セルフケア能力を高める支援を通して、一人ひとりの健康を育みます。

<主な御意見>

・ 「つながりによる安心の中で～」とあるが、「自分の望む人生設計ができる」などの言葉に置き換えたほうが良い。

・ これからの時代の教育を語る言葉として「生きる力」は、賞味期限切れのように感じる。

・ 取組方針ウの「自然に健康でいられる環境」は理解しづらい。
・ 「自然に…」という言葉に違和感がある。
・ 「自然に健康」は何を意図されたのか。
・ 「健康を支え、守るための社会環境の整備」としてはどうか。
・ 「自然と健康につながっていく環境」等としてはどうか。

・ 未来の主役づくりを「子どもだけではなく、高齢者もずっと主役であり続けられる社会にしたい」と解釈した。そうであるならば、冒頭に「人生100年時代を想定した」などを明記するとより分かりやすくなる。

・ 人生100年時代を踏まえると、「生きる喜び」等の主役となる嬉しさや楽しさに関する表現を追加してはどうか。

・ 「切れ目のない質の高い教育」の意図するところが分かりにくい。

<検討の方向性>

本市のブランドメッセージを踏まえて示しています。
いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

本市としては、大きく社会環境が変化するなかで、時代に応じた「生きる力」を育むことは引き続き重要であると考えています。

「意識しなくとも健康でいられる環境」を意図して示しています。「経済財政運営と改革の基本方針 2019（令和元年6月21日閣議決定）」でも”自然に健康になれる環境づくりや行動変容を促す仕掛けなど新たな手法も活用し～”と使用されていますが、多くの御意見をいただきましたので、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

重点テーマ(1)未来の主役づくりの取組方針アは、子どもや子育て世代を対象としたものですが、取組方針イ・ウは全世代を対象としています。
いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

基本構想の基本理念には、「生きる喜びを感じられる新たな時代に向けた」思いが込められています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

4. 重点テーマ及び取組方針

(2) 未来へのつながりづくり

テーマに込めた思い

現在、地域課題は多様化・複合化してきており、解決のためには今まで以上にきめ細かい対応が求められることから、地域共生社会実現に向けた地域づくりの重要性はさらに高まっています。また、人口減少を想定した中では、市民の郷土愛を育み、本市に住民として住み続けてもらうことに加え、本市に魅力を感じ、地域の人々と関わり地域のために動こうとする関係人口や、本市を訪問先や居住地として選択をする交流人口を増加させていく必要があります。

一方で、社会的課題への対応を捉えた場合には、様々な関係機関との連携を強化・創出し、シナジー効果を最大限高めていくことが重要です。地域の魅力を活かして進める地域づくりの推進により、多様化・複合化した地域課題の解決を図るとともに、未来へつなぐ地域の活性化を図ります。

取組方針

ア 多様かつ複合化した地域課題の解決に向け、市民力・地域力をもとにして、地域が主体的に支えあえる「地域づくり」を推進します。

イ 日本遺産をきっかけとして、桑都文化を磨き上げ、地域活動や地域の産業・経済の活性化を図るほか、豊富な資源を活用した地域主体の観光まちづくりを推進します。

ウ 豊かな産業資源の優位性や学園都市としての知の集積を活かし、産学官民連携で革新的なイノベーションによる価値創造を目指します。

<主な御意見>

重点テーマ②の取組方針アについて、「地域が主体的に支えあえる」とあるが、主語が「地域住民」では意味合いが異なるのか。地域で活動する団体の構成員も地域住民である。また、「主体的に支えあえる」だと住民に責任を転嫁しているようにも受け取れるので、例えば、「地域住民が相互に支えあえる『地域づくり』を支援します」としてはどうか。

取組方針イについて、前半は文化や地域活性化を図るとされているが、後半は観光まちづくりにつながっている。「文化」と「観光」は異なるが、双方を指しているのか。
前半の「日本遺産をきっかけとして、桑都文化を磨き上げ」で1文、以降の後半で1文と、2文に分けた方がよいのではないかと。

<検討の方向性>

本市では、「地域づくり」を地域が主体的に地域の魅力や地域課題を把握し、地域課題の解決などのために協働していくしくみを構築することと定義しています。
いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

前半部と後半部の2つの要素で構成しているため、いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

4. 重点テーマ及び取組方針

(3) 未来に続く都市づくり

テーマに込めた思い

本市は、豊かな自然環境、地理的優位性と交通の利便性に恵まれ、大学や産業が集積する首都圏西部の中核都市として発展を続けてきました。一方で、東日本大震災を教訓とする防災意識の高まりや人口減少・少子高齢化の進行、地球規模での環境問題の深刻化など、社会情勢や本市を取り巻く都市環境は、大きな転換期に直面しています。

市民の安全・安心につながる強靱なまちづくりを推進するとともに、都市の快適性の向上、地域経済発展に資する産業振興、環境への配慮・自然との調和に向け、ハードとソフトの両面からこれまで以上に注力することで、次世代に引き継いでいくことのできる、未来に続く持続可能な都市を形成していきます。

取組方針

- ア 自助・互助・共助の連携強化を図るとともに、自然や先端技術を活用し、災害の脅威から市民の命を守る強靱なまちづくりを推進します。
- イ にぎわいと活力を生み出すため、新産業分野の事業創出や既存産業への支援を行うほか、公共交通の充実とともにウォーカブルなまちづくりを推進します。
- ウ 自然環境と都市機能が調和した都市の実現に向け、再生可能エネルギーの導入推進・普及など持続力を生み出す取組を推進します。

<主な御意見>

- 重点テーマ③の「災害」は自然災害のみならず、コロナ感染症、鳥インフルエンザをはじめ、大事故、テロ等も含めた災害であると思う。わかりやすくするために、これらの事象も含めた文言にしたらと考える。
- 重点テーマ②は、「桑都文化」や「産学官民連携」等で八王子市らしさが表現されている一方、重点テーマ③の取組方針では表現されていない。八王子ならではの強みを盛り込む内容にできないか。
- 「ウォーカブル」は、別の表現で代替すべきである。
- 「歩きたくなるまち」ということであれば、広場等の目的地の整備のみならず、街並みの再生を図ることも重要と考える。
- 「自助・互助・共助及び公助の連携強化」のように、「公助」は明示した方がよい。
- 取組方針アで、「自助・互助・共助の連携強化を図るとともに」とあるが「公助」の連携も当然必要と思う。その文言がなぜ無いのか説明が欲しい。
- 「自然を活用した強靱なまちづくり」は、意図を説明しきるのは難しいかもしれないが、言葉足らずな印象を受けた。
- 「自然を活用した強靱なまちづくり」についても人によっては理解が難しい。

<検討の方向性>

本市も同様に考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

いただいた御意見を踏まえ、必要な検討を進めていく考えです。

「ウォーカブル」は、「居心地が良く歩きたくなる」を意味しており、国土交通省でも使用しています。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

「公助」の連携は大前提であると考えているため、いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

自然環境が有する気温上昇の抑制などの多様な機能を活用することを想定しています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

5. その他

(1) 基本構想に関する御意見

<主な御意見>

- 「都市像実現のための大きな柱」は説明の加筆を検討したほうが良い。
- 「都市像実現のための大きな柱」にある「市民・行政の互いの役割」の文言の「市民」には企業やNP0、市民団体も含まれているのか。「市民」についてより踏み込んだ説明を記載いただきたい。
- 基本構想を継承することについては、初めて聞いたときに違和感を感じる市民も少なくないように思う。そのような思いを払拭するための工夫（広報も含む）も必要だと考える。

<検討の方向性>

いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

市民は、市内に在住、在勤又は在学する個人並びに市内に事務所又は事業所を有する個人及び法人その他の団体であり、広義として捉えています。原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

意見聴取を目的に実施した中学校区別ワークショップやアンケート調査などから、基本構想の柱である「人とひととの支えあい、つながり」と市民・行政の互いの役割と責任ある行動による「協働」の必要性について同様の意見、考えを多く聴取したこと、また、基本構想策定時に捉えていた社会環境の変化や現行基本構想の基調などに根本的な相違はないことから継承します。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

(2) 長期ビジョン全般に関する御意見

<主な御意見>

- 重点テーマ①～③は既存の言葉や価値観の枠組みにとられており、未来の突破口が見えてこない。
- 長期ビジョンにおける重点テーマ及び取組方針について、自分がやりたいことの多くが重なっていることを確認し、心強く感じました。
- 素案について、記載内容に対する変更や訂正などの意見はない。中学校区ワークショップに参加をさせていただいたが、それぞれから出た意見を集約できている内容と感じた。

<検討の方向性>

長期ビジョンでは、「未来を拓く原動力」や「変革のキーワード」との関係のなかで今まで以上の展開を創出するため、分野横断的に取り組んでいく考えです。重点テーマ・取組方針に基づく具体的な施策については原案でお示ししますが、いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

市民の皆様のやりたいことが叶う「あなたのみちを、あるけるまち。八王子（ブランドメッセージ）」を目指し取組んでいきます。

中学校区別ワークショップに御参加いただきありがとうございました。引き続き、市民の皆様の声を受け止め、目標を共有できる長期ビジョンを策定していきます。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。

5. その他

(2) 長期ビジョン全般に関する御意見

<主な御意見>

- ・ 一般市民にとって、内容がやや難しいと思う。

- ・ 2040年の世代はSDGsネイティブの世代であり、八王子市に住み続けたいと思っていただくために「SDGs」や「カーボンニュートラル」に真正面から取り組んでいく必要があるのではないかな。

- ・ 長期ビジョンにおける「長期」という言葉に違和感がある。社会潮流の変化に対応すべく、適宜計画を見直すべきなのではないかな。

- ・ 就職氷河期世代の対応は喫緊の課題と考えるが、今回の計画では盛り込まれるのか。

- ・ 地域で様々な活動をしている方々が今の案を見た場合、現在のそれらの活動が2030年、2040年にどのように繋がるかがよくわからないのではないかな。

- ・ 前例にとらわれることなく、市民との真の協働を進め、行政と市民、市民同士が支え合うための仕掛け（基盤）を作っていただきたい。

<検討の方向性>

いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

基本構想に掲げた6つの都市像は、SDGsの理念と方向性は同じであり、「八王子ビジョン2022」を推進することで、SDGsの達成に貢献していくこととし、これまで取り組んできました。引き続き、この考えを継承し、取組を加速化させていく考えです。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

社会環境の変化に迅速、柔軟に対応していく必要があるため、あらかじめ見直し時期を示すことも含め、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

就職氷河期世代等の就労促進は課題であると認識しており、姿(4)の実現に向けて重点テーマ(1)未来の主役づくり、取組方針イに基づき取り組んでいく考えです。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

現在、地域で活動をされている市民の皆様は、本市が誇る「市民力・地域力」の源泉であり、協働によるまちづくりの大切なパートナーです。今後、都市像や「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向けて、市民の皆様がより活躍できる、活動の幅を広げられる環境づくりが必要であると考えています。いただいた御意見を踏まえ、原案において意図が伝わる掲載方法を検討していく考えです。

市民の暮らしを守るセーフティネット機能を高めていくことは行政の責務です。また、市民と行政の協働や市民同士の支え合いは、今後更に重要となるものと認識しています。いただいた御意見を踏まえ、原案策定に向けて具体的な検討を進めていく考えです。

※パブリックコメントで聴取した御意見に下線を付しております。